

昭和電工株式会社 2020年1Q 決算説明会 Q&A 要旨

日時：2020年5月15日（金）18:00～19:00

説明者：代表取締役常務執行役員 CFO 竹内 元浩

* 内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について、1Qでの営業利益へのマイナスの影響額は。

A 他要因と明確な区分けはできず金額では明示できないが、それなりの影響を受けた。例えば、黒鉛電極ではヨーロッパの鉄鋼生産が軟化し需要が先送りになった等だ。新型コロナの影響は、2Qにおいてさらに大きく拡大する。東南アジアの国々で外出禁止・生産活動停止の影響が出ており、HDDメーカー等お客様の生産に影響が出ている。

一方、テレワーク、オンライン化の需要が増加し、データセンター向けHDメディア需要は旺盛で、今後とも増加の見込み。半導体メモリ向け電子材料用高純度ガスの出荷も堅調。

Q 配当を未定に変えたのは残念だ。中長期的視点から130円を維持する方針は取れなかったのか。

A 日立化成(株)の株式に対するTOBを開始した3月時点での新型コロナウイルス感染症拡大の経営に与える影響の見方に対して、現在の感染症拡大の世界経済に与えるインパクトは当社想定以上に大きくなりすぎてしまった。金額の予想はこれからだが、新型コロナウイルス感染症の影響が足元以上に悪化しない限り配当を続けたい。

【石油化学セグメント】

Q エチレンの稼働率は。

A 1Qは誘導品の定修があり9割弱の稼働率。2Qは定修明けで小幅な稼働上昇を見込む。

Q 原油価格下落の影響が石油化学事業に与える影響は。

A 世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、原油価格は3月に急落し、その後も価格は低迷した状況が続いている。2Qの石油化学セグメントは、受払差は国産ナフサ価格が1Qの半値となるため大きく悪化し、タイムラグ要因も悪化する。総じてナフサ要因が1Q比大きく悪化し、厳しい業況となるものと思われる。

【エレクトロニクスセグメント】 (HD)

Q HDメディアの販売数量の状況はどうか。

A 前年1Qと比べてデータセンター向けニアラインメディアの出荷増で20%強の数量増となった。昨年4Q比では季節性から小幅に減少したが、PC向けも低水準ながら堅調。新型コロナウイルス感染症対策による東南アジア諸国での外出規制で、2QはHDDメーカーの生産に大きな制約が出ており当社のメディア出荷も影響を受ける。トレンドとしてはデジタル化の進展で需要は拡大している。東南アジアのHDD顧客の生産は下期から回復を見込む。

【無機セグメント】

(黒鉛電極)

Q 1Qの黒鉛電極の販売数量、原料ニードルコークスの調達・在庫動向は。2Qをどうみているのか。

A 1Qの販売数量は、当初計画3万tに対し2万t弱であった。鉄鋼の需要減を受け減産を強化している。2Qは販売量増加の見込み。当社の方針は、生産は抑え、在庫水準を段階的に改善させていく。販売価格は昨年後半から軟化が続いており、2Qもその傾向が続く。東アジアは4月に価格改定がある。欧米は新型コロナウイルス感染症の影響を受け市況は厳しい。

以上

* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大が世界経済に与える影響、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前掲につまましては、2020年5月15日発表の弊社決算短信をご参照ください。